卒業生アンケート、企業評価アンケートの結果について

1．目的

学生の卒業後の状況から、ディプロマ・ポリシーに照らして、教育成果を検証する。卒業生の資質･能力の状況に関するアンケート調査を実施し､調査結果等を教育活動の改善に反映させる。

2．調査対象

卒業生アンケート	企業評価アンケート
2018 年度（2019 年 3 月）学部卒業生、大学院（博士前期・専門職）修了者《入社 3 年目》	学内合同企業説明会参加企業

3．調査方法、時期

メールにより依頼し、WEB フォームにて回収。2021 年 7~8 月に実施。

4．回収状況

卒業生アンケート	企業評価アンケート
回収率 14.3%（回答 73 人／依頼 510 人）	回収率 43.0%（回答 43 社／依頼 100 社）

5．調査内容

学生アンケート（学部 3 年次、学部卒業時）で確認している学部ディプロマ・ポリシー達成度に準じた設問（資質・能力）15 項目について、項目の重要度と卒業生の水準を問う。

卒業生アンケート	企業評価アンケート
①入社時点での自身の資質・能力の水準（自己評価） ②現時点（入社 3 年目）での自身の資質・能力の水準（自己評価）	①大学新卒者（学士）の採用にあたって重視する項目を 3 つ選択 ②大学院新卒者（修士）の採用にあたって重視する項目を 3 つ選択 ③本学の卒業生が在職している場合、入社時点での資質・能力の印象（水準） ④本学の大学院修了生が在職している場合、入社時点での資質・能力の印象（水準）

区分	項目		質問
対人能力	関係構築力	1	異なる立場や意見の相手でも相手を尊重し、人間関係を築くことができる。
	協働力	2	他者と状況を共有し、自己や他者の役割を理解しながら、協力して物事を進められる。
	調整力	3	異なる意見を調整し、交渉･説得をして合意を形成することができる。
対自己能力	自己制御力	4	自己の感情や気持ちを認識し、言動をコントロールできる。
	自己効力感	5	他者と自己の違いを認め、自己の強みを認識することができる。
	主体性･持続力	6	自己の意思や判断において自ら進んで行動し、一度決めたことはやりきることができる。
対課題能力	問題発見力	7	様々な角度から問題を分析し、問題の本質を見抜き、原因を明らかにすることができる。
	計画立案力	8	ゴールイメージを明確にし目標を立て、その実現に向けたシナリオを描くことができる。
	実践力	9	自ら行動にとりかかり、実行に移すことができる。状況を見て、計画や行動を柔軟に変更することができる。
専門知識･技術	専門基礎力	10	専門分野の基礎知識･技術を身につけている。
	高度な専門性	11	専攻における高度な専門性を身につけている。
リベラルアーツ	幅広い教養	12	幅広い教養や情報リテラシーを身につけている。
英語力	英語力	13	仕事に必要な英語力を身につけている。
生涯学習力	自己研鑽	14	主体的に学び続ける意欲がある。
社会的責任、倫理観	責任感･倫理観	15	仕事における責任感や倫理観を備えている。

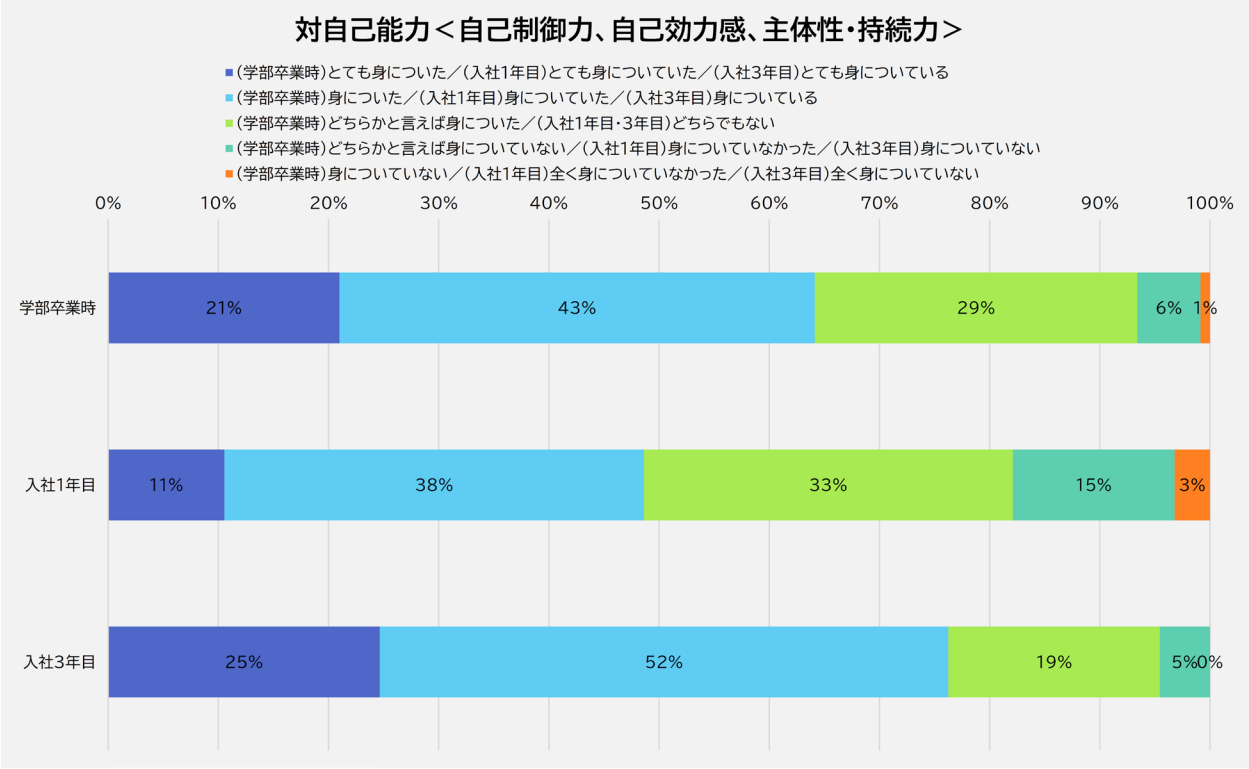
６．概況

（１）卒業生アンケート（学部卒業時アンケート（2019.3 実施）とも比較し、分析した。）

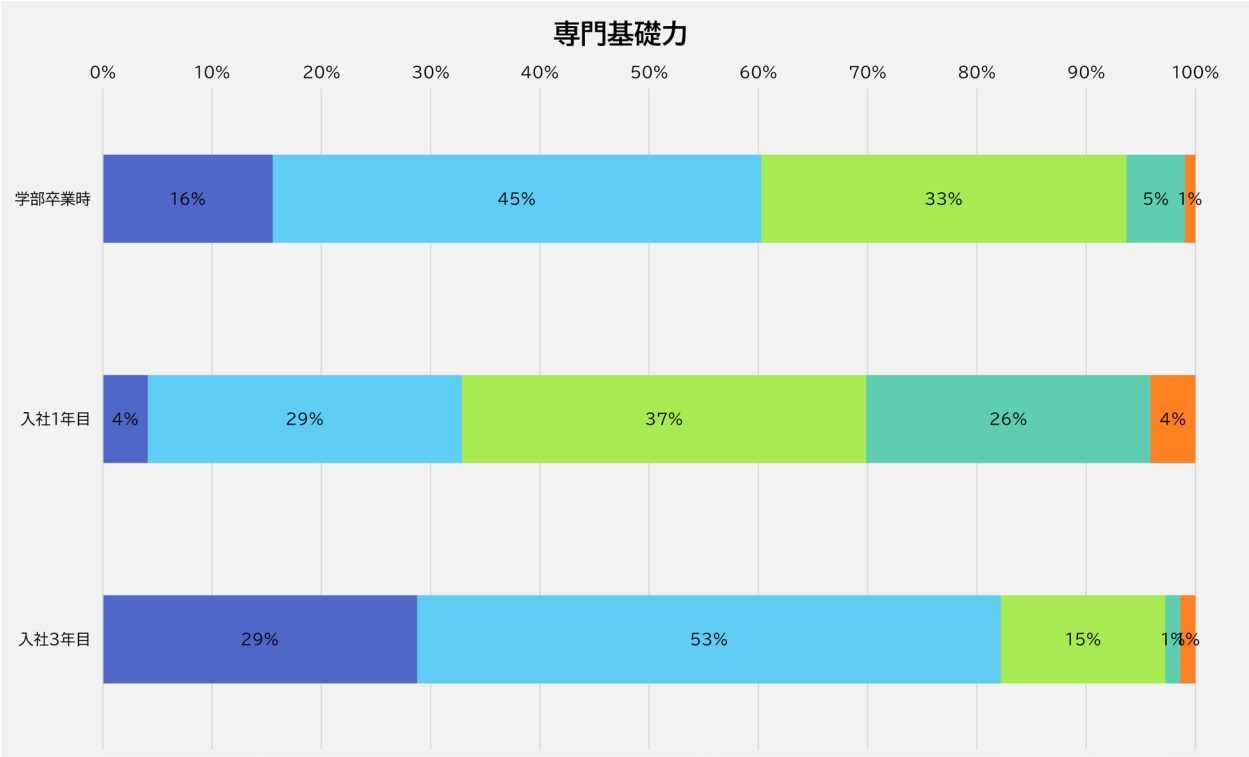
●「学部卒業時」と「入社１年目」はほぼ同時期だが、「学部卒業時」が学生の立場でその時点での自己評価をしており、「入社１年目」は社会人の立場で過去を振り返っての評価をしていることから、回答の分布は大きく異なり、「入社１年目」の評価は低くなっている。

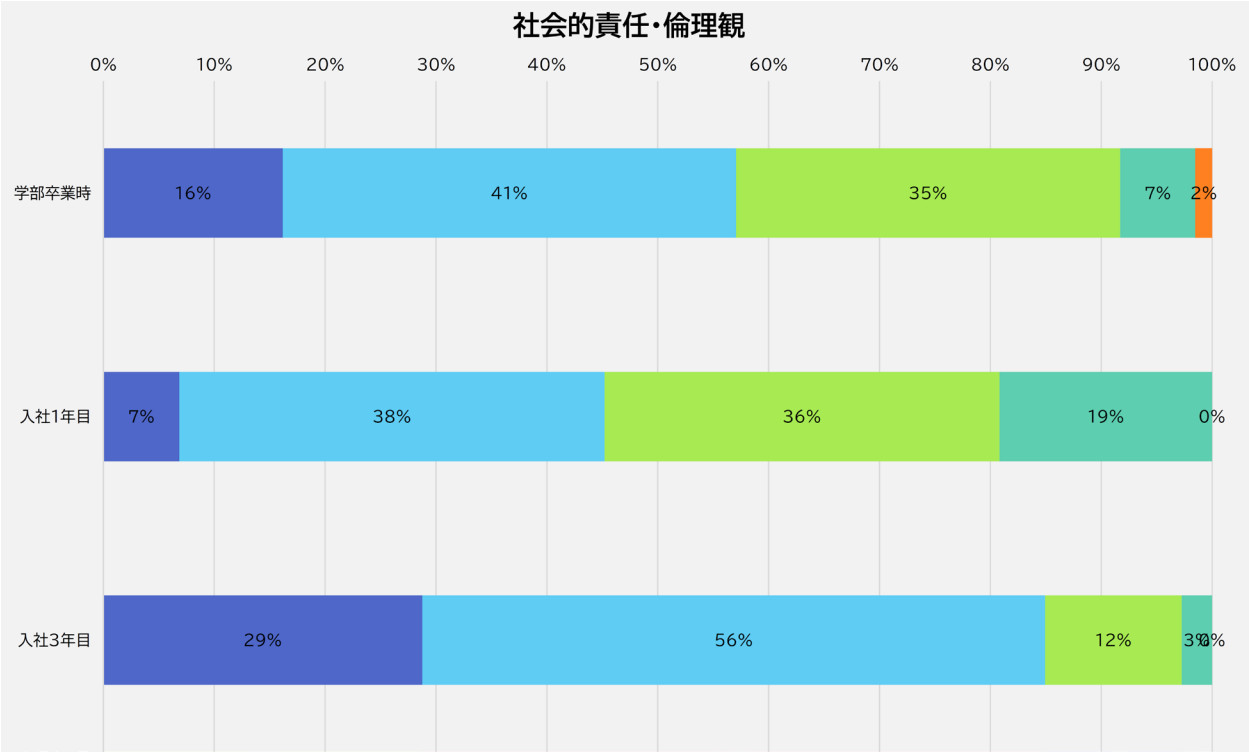
●「入社３年目（現在）」では、勤務先での経験等により、順調に成長している姿がうかがえる。

【例】

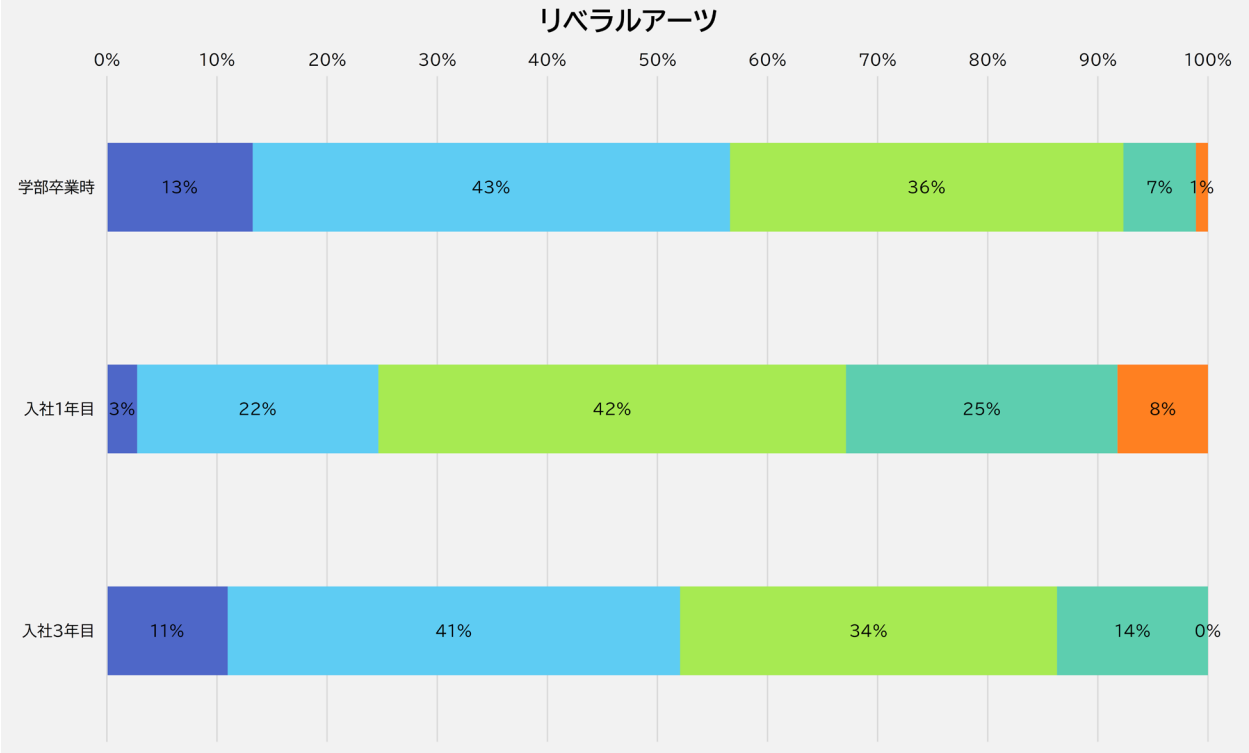


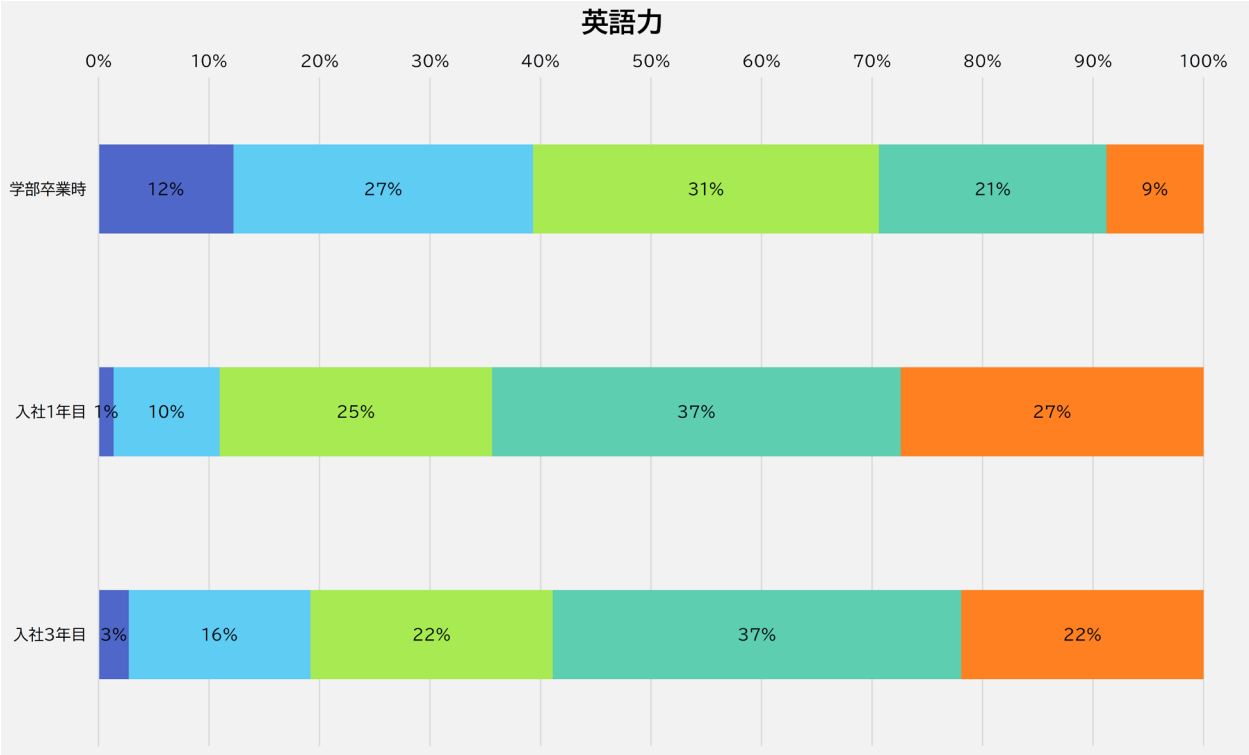
●特に、『専門基礎力』と『社会的責任・倫理観』の伸び幅が大きい。





●一方で、『リベラルアーツ』と『英語力』においては、「学部卒業時」の自己評価よりも低評価で、他大学卒業者と交わる中で厳しく相対評価している状況がうかがえる。





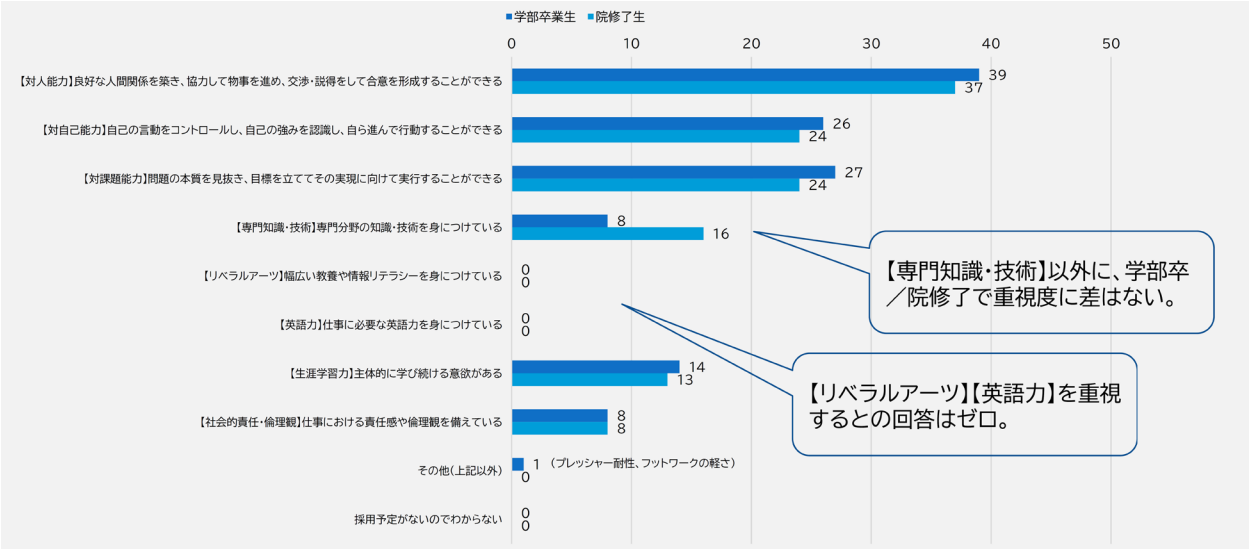
（２）企業評価アンケート

①新卒採用時の重視項目

●新卒採用にあたって重視する項目は、対人能力＞対自己能力≒対課題能力＞生涯学習力の順。
（2016 年度の調査では、対人能力＞対自己能力＞生涯学習力＞対課題能力であった。）

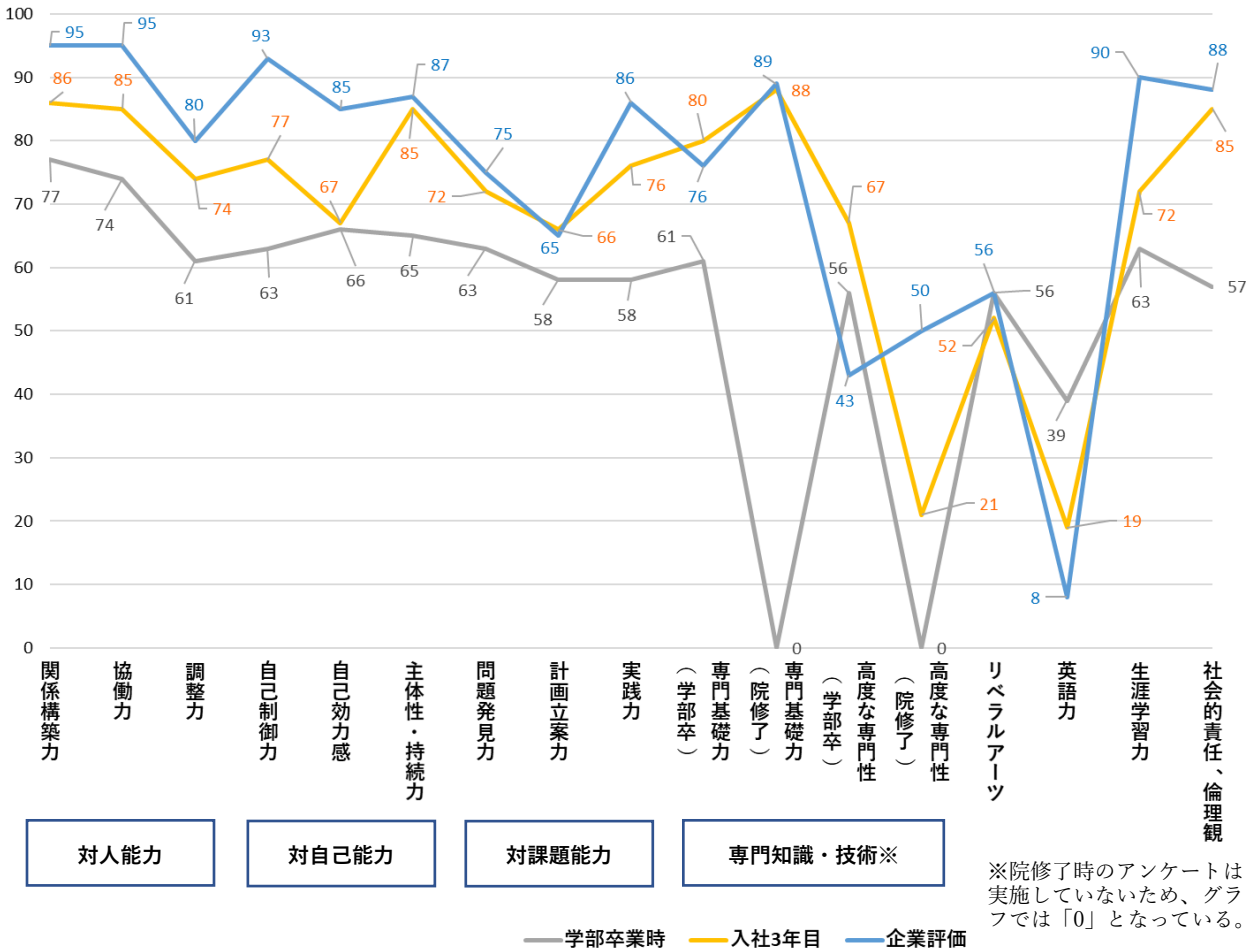
●『専門知識・技術』以外に、学部卒／院修了で重視度に差は見られない。

●『リベラルアーツ』と『英語力』を重視すると回答した企業はゼロ。



②本学卒業（修了）生の資質・能力（学部卒業時アンケートおよび卒業生アンケートとも比較し、分析した。）

●企業からの本学卒業（修了）生の評価は次表のとおり。数字は、「とても身についている」と「身についている」の回答のパーセンテージの合計。採用時の重視度に差がある『専門知識・技術』のみ、学部卒と院修了で区分した。



※院修了時のアンケートは実施していないため、グラフでは「0」となっている。

●おおむね、企業評価＞入社３年目＞学部卒業時の評価となっている。

●企業が最も重視する『対人能力』のうち、【関係構築力】【協働力】は非常に高評価をいただいた。【調整力】もやや劣るものの高評価。

●『対自己能力』についても、【自己制御力】【自己効力感】【主体性・持続力】とも高評価。

●『対課題能力』のうち、【問題発見力】【計画立案力】はやや低評価、【実践力】は高評価となった。

●『専門知識・技術』のうち、【専門基礎力】は、学部卒はやや低評価、院修了は高評価。【高度な専門性】はともに低評価。学部卒業者、院修了者、企業人事担当者で評価にバラツキがあり、“高度”の基準が異なると思われる。

●『リベラルアーツ』『英語力』について評価は芳しくないが、既述のとおり、採用時の重視項目とはなっていない。

●『生涯学習力』『社会的責任、倫理観』は高評価。

以　上